

夜雨音色（やしゅうないろ）

夜に落つ涙の雨音は  
愛しい人の悲しい涙音  
男の部屋へと叩く鈴音  
逢えない想い怨み涙音  
女の性の哀れ叫び音色

夜に落つ涙の雨音は  
愛しい人への想い音色  
男は部屋で耐える哭音  
幸せ願ひ噎び泣き涙雨  
男の哀れ叫び斬る音色

夜に落つ涙の雨音は  
男と女の哀れな響き音  
女と男の哀れな道行色  
凡て流せと諦めの音色  
男と女が情を分る哭音

2000/End draft

霧雨音色（むしゅうないろ）

夜の街路に木霊する靴音  
霧雨が情を濡らし  
男と女がコツコツと  
揺れ響かせて歩いている

互いに喋ることもなく  
男は疲れきって  
女は諦めきって  
お互いに傘をさし  
並木道を歩いて行く  
霧雨の中を歩いている

遊歩道に響く靴音が  
外灯に照され  
見果てぬ互いの音を絡ませ  
男と女が歩いている

2000/End draft

残り雨

男と女は悲しいね  
男は夢を失い  
女は夢を描き

男と女は哀れです

秋雨は淋しいね  
夢をなくした男と  
明日を待っている女と  
秋雨は寒いです

男も女も哀れです  
男は無口で  
女を抱いて  
男も女も淋しいです

2019/End draft

あまおと

女の顔は青白なって  
男の顔も白づいて  
お互いに無口色で  
男も女も哀れ色に染まって

秋雨は寒色です  
夢色を冷まさせ  
男と女は昔を恋し

まだ幼い日々のあの時を

女は人生に醒めて  
男は黙って傘を差す  
相合い傘の男と女へ  
氷雨混じりは悲しい雨色

2000/End draft

### 男と女

女は男を  
信じられなくなった  
男も女を  
信じられなくなった

人が人を  
信じられなくなると  
顔の形まで  
変ってしまうのですね  
女も変ったし  
男も変った

男と女はお互いに  
帰らぬ日々を振り返えり  
戻らぬ思いへ恋い焦がれ  
なくした心に涙を流す

2000/End draft

### 男と女 (二)

女は Eye Shadow を  
Manicure を塗り  
男は疲れて  
黙って待っている  
いつしか目で語りだし  
言葉を失った  
女と男は哀れです

灯りに照された  
女と男の笑い顔に  
むつろな声が響きは  
風に流されて  
街を吹かれ過ぎる  
Manicure の手が動き  
EyeShadow が光り  
女は灯りに流されて  
男も夢に流されて

いつか男も女も戻らぬ  
橋を渡っていた

2000/End draft

### 男と女 (三)

恋の流れの行き先は  
女の泪の止むる時  
刃物の悲しい血の匂い  
一度の生きの悲しさよ

戻らぬ旅路の門出ゆえ  
衣裳化粧の儂さよ  
生きてかなわぬ幸せを  
月の明かりが照らしている

祭りの夜の路地裏通り  
風が吹いて流れ行く  
吠えたい生きの人の世を  
ぐいっと心に沈ませて  
旅路の女の幸せを  
一途に祈る悲しさよ

男と女は哀れなり  
女と男は悲しいなり

2000/End draft

### 旅立ち

女の身体は柔らかく  
男の流す涙を  
優しく受けとめ  
男を抱いて  
母のように包んでくれる

男は幾つになっても  
子供ですの  
女の乳を吸いながら  
見果てぬ夢を  
追い求めるものです

でも男は知っている  
女と別れる日を  
男はいつだって  
母からは  
独立していくものですので

2000/End draft

### 通い道

世間を知った女は  
男を餌にしてね  
男は女のそういう  
力に抱かれるものです

それはそれで良いのですがね  
いつかは抜き差し  
ならなくなってしまうして  
男も女も刃物の日々が  
三昧をおくるようになってしまいました  
互いに刺し違いたままで  
死んでくれればよいのですが  
世の中そんなには  
簡単に甘くはないようです  
生き残った男の道も地獄なら  
生き残った女の道も地獄路です

今度こそやり損なわず  
男と女は殺し合う  
永遠に目を瞑るために  
二度と眼を開かないために

2000/End draft

夜叉

夜叉よ愛しているのなら  
この私を殺せるというのか  
憎んでいるのなら  
この私を殺せるのか  
私のこの命を  
みごと散らせることが  
出来るというのか

何時でもいいよ  
私を刺してごらん  
私がどうでるか  
私もそれを知りたくてね  
むしろ夜叉になって  
あなたが狂う方が  
私は怖い  
狂ったお前を  
抱き締め愛撫する  
おのが心が怖い  
狂ったお前の愛撫が  
心に染み込む方が  
私は怖い

窓明かり

夜叉よ愛しているのなら  
この私を殺せるのか  
憎んでいるのなら  
私を殺せるというのか  
私のこの命を  
みごと散らせて欲しい  
夜叉よ散らせて欲しい  
2000/End draft

しあわせを逃がした  
おとこは何処へ行くのでしょ  
しあわせを掴み損ねた  
おんなはどうするのでしょ  
一家団欒の窓灯かりを  
眩しく眺めて佇んで  
足元に落ち葉がまとわりつき  
行く場所も無い戸惑いを  
男も女も夜風に流している  
踏み違えた己の道を  
屋台の酒で紛らわせ  
酔えた匂いが中で  
無かったしあわせの夢へと

心が微睡み男も女も  
束の間の温もりに浸る

幸せを掴み損ねた  
男は死に場所を求めて  
幸せを逃がした  
女も死に場所を求めて  
死に切れずに生きている  
人の幸福をただ眺め  
身に吹く冬の風へ  
そうであつたしあわせを  
かすかに夢に炊き  
木枯らしがそれすらも  
消さっていく  
2000/End draft

鮮血

雲間に出る紅の月が  
女の白い両の手を  
真っ赤に染めさせるなら  
男はどうすればよい  
ただ見ているだけか  
いやなさせるままか

それもよいだろう

月の明かりに光る  
刃物の冷たきを見るのも

唯一心配なのは  
女が間違はなく  
殺してくれるかである  
やり損なって  
生きるはいやだ！

死に切れない己の  
姿を見るのは嫌だ

紅の月が雲に隠れ  
女の手が鮮血に散ったとき  
死に切れないことを恐れて  
鮮血の手を握ったまま  
己を殺し続けるだろう

2000 / End draft

なみだ

涙が月夜に光り  
生きる力を  
無くし始める

生きが絶えたのなら  
二人とも  
永遠の幸せを  
掴むというのだろうか  
死んだら  
花が咲くというのか  
生きて咲くことのない花を  
無言の死体となれば  
咲くというのか

男の安堵の顔が  
月の明かりに照らされて  
女の化粧も照らされて

息せぬ二人の道行きを  
月の明かりが照らしている  
生きて掴みたかった幸せか

寒夜に吹き来る冷え風が  
男と女の  
咲かなかった花を  
吹き去って  
来し方行く末へ消えて行く  
祈りの闇へと去っている

End all [ *Man and Woman* ]